

はじめに

世界人口は現在77億人、2030年までに85億人、2050年に97億人、2100年には109億人になると予測されています。

19世紀末から続く人口爆発は宇宙船地球号に負荷を与え、環境・食糧・エネルギー・資源などあらゆる面で危機をもたらし、さらに文明や民族間の摩擦から紛争や緊張関係、難民問題を引き起こし、世界中に混乱をもたらしています。

日本は世界人口のわずか1.6%ながら第三の経済大国、世界あつての日本です。日本・日本人は、世界・地球のために今いかなる貢献をすべきでしょうか。

政治、経済、文化、社会あらゆる面で世界や地域との交流が深まり、ITの進化とともに、人・モノ・財・情報が自由に行きかうグローバル時代。特に若い人たちは留学・研修・観光・仕事など世界と交わる機会がますます増加します。

自由貿易主義をとる日本は、たとえ他国で異なる動きがあったとしても、基本的に地球全体の利益を考え、世界をリードし、行動することが求められます。

その際、他の国や人との交流の中で間違いなく必要とされるのが、「コミュニケーション能力」「歴史についての知識と認識」です。特に「歴史認識」なしに他国や異文化理解はあり得ないと言えます。

世界の未来を拓くために、全地球的視野と共存共栄の精神を持ち、正しく深い歴史認識と相手国の文化や生活習慣への理解のもと、今世紀の半ばには歴史上最大の人口97億人となる地球の持続可能性を図らねばなりません。

1997年に始めた歴史能力検定は24年。今までに約54万人を超える方々が受験されました。この「歴検」受験を機会に歴史を学び、歴史認識を深めた上で自らのアイデンティティを確立し、地球を舞台に活躍する人材が一人でも多く育つことを期待いたします。

明日の世界はあなたを待っています。

歴史能力検定協会
会長 黒水恒男

もくじ

はじめに	3
刊行にあたって	5
本書の構成と利用法	5
歴史能力検定について	7
合格者の勉強法	9
5級 歴史入門	問題 13
	解答・解説 28
4級 歴史基本	問題 31
	解答・解説 50
準3級 日本史	問題 53
	解答・解説 72
3級 世界史	問題 75
	解答・解説 96
3級 日本史	問題 99
	解答・解説 118
2級 世界史	問題 121
	解答・解説 144
2級 日本史	問題 147
	解答・解説 164
1級 世界史	問題 167
	解答・解説 182
1級 日本史	問題 185
	解答・解説 200
各級 解答用紙	203

刊行にあたって

本書は2020年第39回歴史能力検定の6階級全9種類の試験問題を1冊にまとめたものです。

2013年8月以降、歴史能力検定の過去問題を収録した書籍は発行されておられません。この間、発行のご要望を多数いただいておりますが、第35回2016年試験問題から、そのご要望におこたえできるようになりました。今後、この過去問題集を通じて皆さまの学習のお手伝いを少しでもできればと考えております。

さて、歴史能力検定は5級から1級までレベルごとに筆記試験を実施し、合否を判定します。本書は階級別、科目別の問題集になっておらず、学習者の皆さまにとって必要としない級の問題もあろうかと思いますが、実際に受験する級のみならず、隣接する上下の級の問題にも目を向けて、今後の受験機会に向けた学習の目標設定に役立てていただければと思います。また、検定試験実施日には、級をまたいで最大4つの試験を受験することができますので、併願受験の対策・準備に用いていただければと考えております。

歴史能力検定協会

本書の構成と利用法

1. 本書の構成

- (1) 5級から1級までの順に、問題と解答・解説を収録してあります。
- (2) 巻末には全9試験の解答用紙を付けてあります。

*参考事項：実際の検定試験では、問題・解答用紙ともにA4判です（本書はA5判です）。

2. 本書の利用法

- (1) 繰り返し解く。

本書には各試験1回分の問題しか収録されておませんが、受験対象級の問題には、繰り返し取り組むことをおすすめします。出題のされ方、問題の性質を理解し、頭に入れておくことは、受験準備の学習時に生きてきます。また、次項(2)に記した時間配分に活かされ、マーク式の解答練習になります。

(2) 時間配分を考える。

各級の試験時間は50分です。時間配分を考えて取り組んでください。もし時間配分がうまくいかず、全問に取り組みなかった場合でも最後までやりとげてください。その場合は、どのくらい時間がかかったかを計っておいてください。時間がかかっても正答率が高ければ取り組み方を改善すれば良いのです。

人によって時間がかかる要因は異なります。

「全体にわたって時間がかかる」「特定の出題形式問題に時間がかかる」「マークをする際、丁寧にしすぎる」など。もしかしたらこれらがすべて当てはまる人もいるかもしれませんが、しかし、自分はどこで、どのような時間がかかっているのかさえ把握し、改善を心がければ、早く取り組めるようになるはずです。

一方、早くできて正答率が低ければ、残念な結果になってしまいます。大問ごとに正答率を確かめて、より時間をかけたほうが良い問題はないかを考えてください。

(3) マーク、記述・論述に慣れる。

5級から3級までは選択式問題、2級は選択式問題と記述問題、1級は選択式問題・記述問題・論述問題となっています。

付属の解答用紙を用いて解答記入の練習をしながら、記入や筆記にかかる時間の把握をしてください。

また、記述・論述の際にはどのくらいの字の大きさに書けば解答欄に収まるのかも考えてください。一度問題を解いたあとで、解答を解答用紙に書き写して清書すると字の大きさの見当がつかます。さらに急いで書いたときに文字が乱れないようにする練習もおきましょう。

(4) 上下の級の問題を見る。

「刊行にあたって」でも触れましたが、次に自分が受ける上の級の問題を受験することを考えている人は、年に1回の検定試験を終えたあとの準備に用いてください。

また、下の級の問題を見たり取り組んだりすることは復習や自分の得手・不得手な問題形式、時代・分野を確認するためにも大いに意味があります。